

# コロナ禍における大学生の外出食についての調査

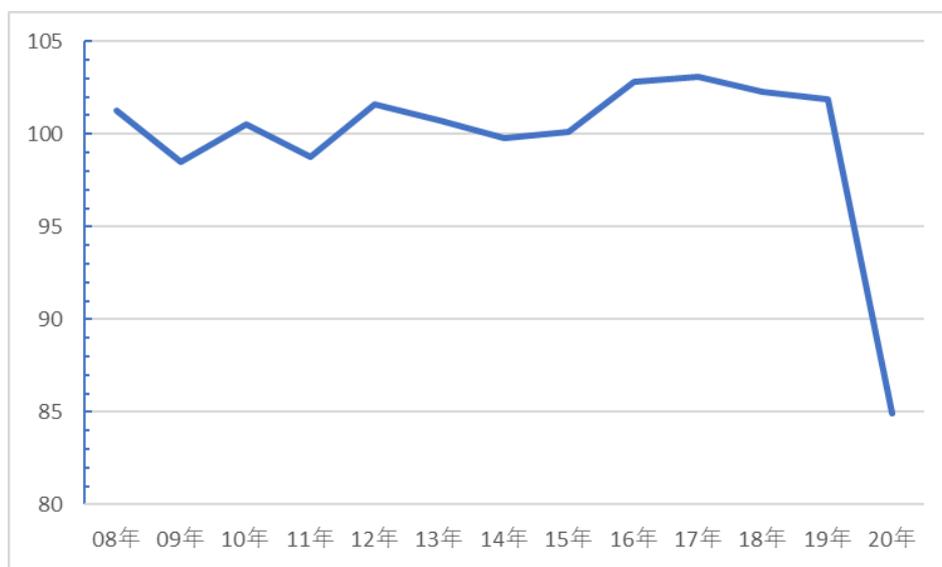
小山 碧（文教大学情報学部メディア表現学科）

## 1. はじめに

2019年11月末に中国の武漢で発生が確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下「新型コロナウイルス」と称する）は世界的なパンデミックとなった。2022年1月現在に至ってもなお収束の気配はなく、国内で「コロナ禍」と称され、外出自粛や三密の回避など新しい生活様式への急速な変化が求められた。

この新型コロナウイルスの影響は、外食産業にも深刻な影響を与えた。日本フードサービス協会会員社による外食産業市場動向調査によると、2020年の外食産業全体の売上前年比は84.9%と、平成6年（1994年）の調査開始以来、最大の下げ幅となった（図表-1）。政府から緊急事態宣言が発出された4月には、前年同月比60.4%と単月として最大の下げとなり、その後、徐々に回復傾向を見せたものの、8月をピークとしたコロナ「第2波」、11月以降の「第3波」の影響を受け、年間では大幅に落ち込んだ。業態別では、テイクアウト、デリバリー需要に支えられた「ファストフード」のような業態もあったが、店内飲食を主とする「ファミリーレストラン」（77.6%）、「居酒屋」（50.5%）、「喫茶」（69.0%）等は軒並み大きなダメージを受けた（図表）。コロナ禍によって、業態間格差は拡大しており、特に飲酒業態への影響は壊滅的で深刻な事態となっている（日本フードサービス協会会員社、2020年）。

図表-1 外食産業全体の前年売上比（%）



外食産業市場動向調査 2020年より筆者作成

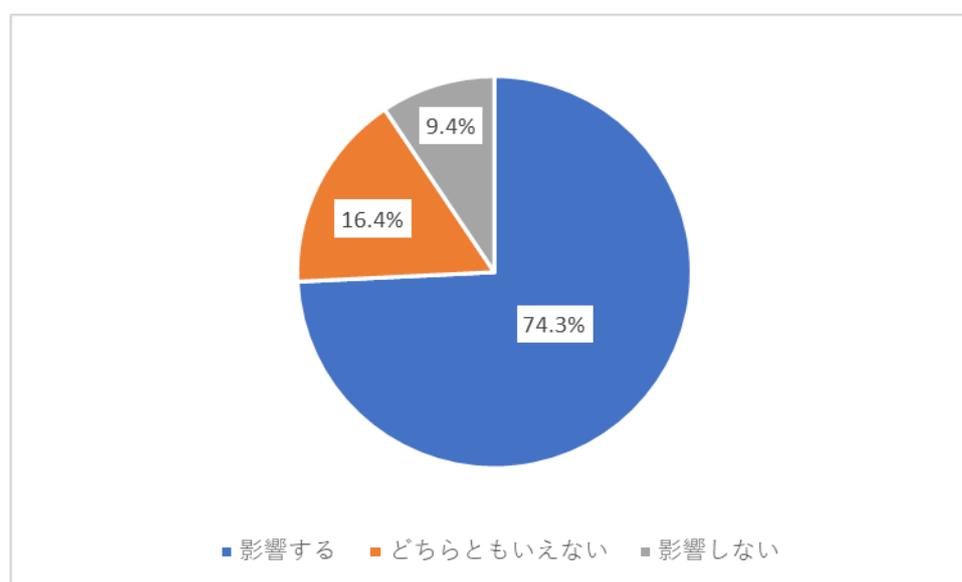
図表-2 2020年四半期別売上前年同月比

	第Ⅰ四半期	第Ⅱ四半期	第Ⅲ四半期	第Ⅳ四半期	年計
全体	95.7%	68.7%	85.0%	90.0%	84.9%
ファストフード	101.7%	87.8%	96.2%	99.7%	96.3%
ファミリーレストラン	92.6%	54.9%	77.5%	86.0%	77.6%
居酒屋	80.8%	19.2%	46.4%	52.2%	50.5%
喫茶	91.0%	41.4%	69.0%	75.3%	69.0%
その他	81.1%	64.4%	82.9%	78.7%	78.9%

外食産業市場動向調査 2020年より筆者作成

このような深刻な状況により、人々が外食する店舗を選ぶ際に、お店の感染予防対策が店舗選択に影響を与えている。株式会社日本政策金融公庫が2020年11月に行った、「外食に関する消費者調査」では、感染予防対策の実施状況がお店選びに「影響する」という回答が7割を占めた（図表-3）（株式会社日本政策金融公庫、2020年）。

図表-3 飲食店を選ぶ際のお店の感染予防対策による影響



外食に関する消費者調査結果 2020年10月より筆者作成

図表-3のデータから、大学生が外食店舗を選択する際にも、「味」「価格」といった要因の他に、「感染対策」や「密にならないかどうか」といった新型コロナウイルスに関する要因が関連していると考えた。

そこで、本調査では、新型コロナウイルスの影響で一変してしまった外食について、文教

大学の学生を対象に調査を行った。外食頻度や使う金額などといった大学生の外食事情についての質問項目や、コロナウイルスの流行後の生活の変化についても調査を行った。また、コロナ禍で、デリバリー、テイクアウトの需要が高まってきているため、その2つの項目についても質問項目に加え、分析を行うことにした。

## 2. 調査研究の方法

### 進捗経緯

5月～6月	調査テーマ検討・決定
7月	予備調査実施
8月～9月	本調査作成
10月	本調査実施
12月～2月	分析・報告書作成

### 予備調査

#### 調査目的

本調査の質問項目を検討するため、大学生の外食の意識について調査する。

#### 調査方法

Google フォームによるオンラインアンケート調査

#### 主な質問項目

年齢、性別などの基本情報

食事頻度

外食に使える金額

実際に行く店舗のジャンル

どんな時に外食をするか

コロナ前後の外出頻度や収入の比較

テイクアウトやデリバリーの利用有無、利用目的

## 本調査

### 調査目的

コロナ禍の大学生の外食事情や意識について調査する。

### 調査方法

調査票は Google フォームを利用し作成。サンプリングで抽出した該当者メールアドレスへ、アンケートのリンクを添付したメールを送信。

サンプリング方法は学部ごとに層化抽出した後、等間隔系統抽出法を用いた。

### 調査実施時期

2021 年 10 月 12 日～22 日（19 日再送付）

### 調査対象

文教大学越谷・湘南・あだちキャンパス在学 1～4 年生

### 調査人数

標本数 800 票（内不在 12 票）

有効回答数 220 票 回収率 27.5%

学部	学生数	割合	割り当て数	学生数/割り当て数の切り上げ
情報	1230	15%	121	10.17125
経営	725	9%	71	10.17125
国際	1079	13%	106	10
健康栄養	391	5%	38	10.17125
人間科学	1708	21%	168	10.17125
文学	1489	18%	146	10.17125
教育	1515	19%	149	10.17125
合計	8137		800	

※ 学籍番号からの推計学生数であり、実際の在学学生数とは異なる

※ 新入生入学者数を元に学籍番号からリストを作成している

※ 卒業年次移行の学生や、学籍番号の番号が異なる留学生は含まれていない

### 主な質問項目

年齢、性別などの基本情報

外食頻度、外食に使える金額、店舗のジャンル、重視している項目

外食、テイクアウト、デリバリーサービスの利用目的

外食をする際何を重視しているか

食事スタイル

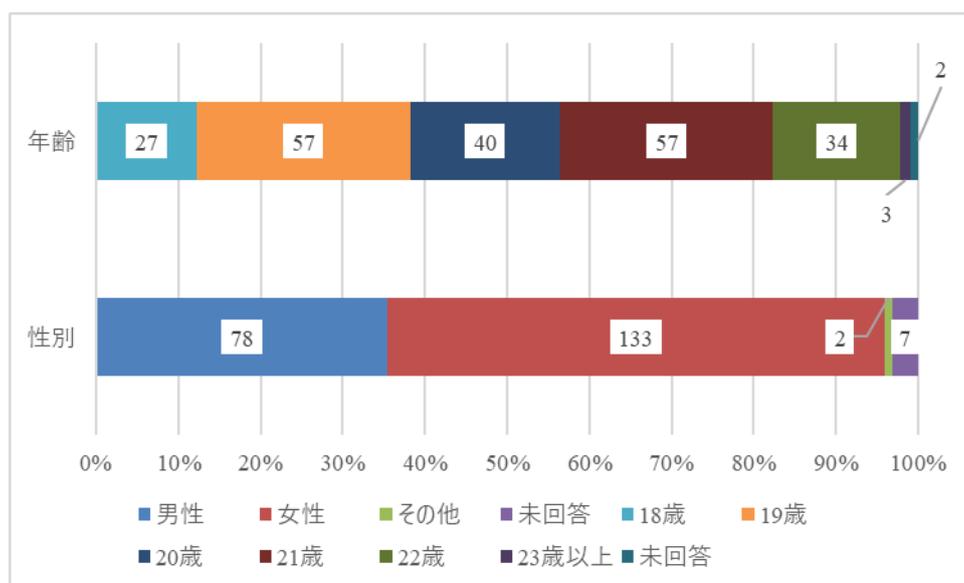
コロナ流行後の意識や生活の変化について

### 3. 調査結果

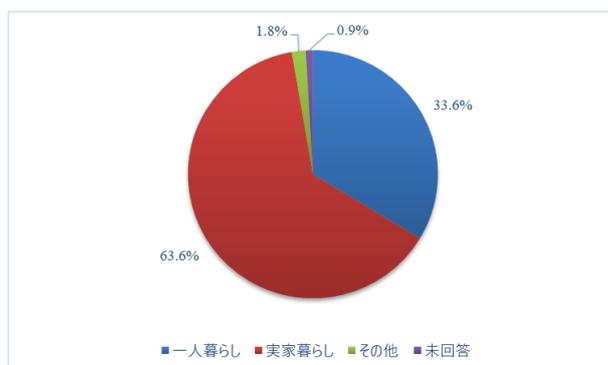
#### 3-1 回答者の基本属性

図表-4～5によると、「年齢」は【19歳】（57名、25.9%）と、【21歳】（57名、25.9%）が最も多く、「性別」は、【女性】が約6割（133名、58.5%）であった。「学部」は学部ごとに学生数が異なるが、大きな差はなかった。「暮らしの形態」は、【実家暮らし】が（140名、63.6%）、「一人暮らし」が（74人、33.6%）であり、約6割の大学生が実家暮らしであることがわかる。

図表-4 回答者の年齢と性別



図表-5 回答者の暮らしの形態



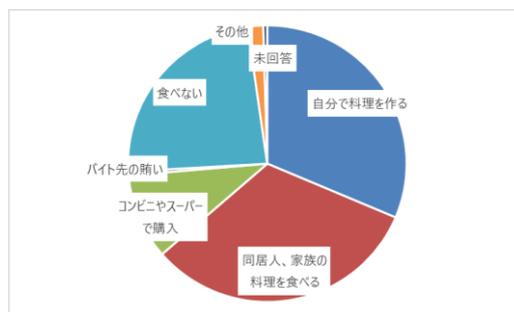
### 3-2 回答者の食事情

大学生の食事情を知るため、食事頻度と最も多い食事スタイルについて質問を行った。

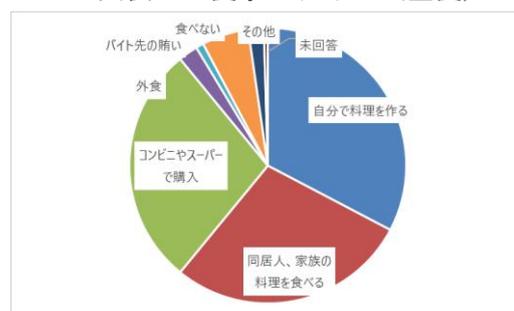
「1日の食事頻度」は、【3回】が半数以上（122名、55.5%）で最も多く、次いで【2回】が87名（39.5%）で多かった。

「食事スタイル」については、朝食は【同居人、家族の料理を食べる】（71名、32.3%）が最も多く、また、【食べない】（52名、23.6%）の割合が昼食、夕食と比べて高くなっていた（図表-6）。昼食は【自分で料理を作る】（72名、32.7%）が最も多かった（図表-7）。夕食は【自分で料理を作る】（61名、27.7%）、【同居人、家族の料理を食べる】（136名、61.8%）の合計が約9割を占めていた（図表-8）。全体を通して、大学生は自宅で作ったものを食べる割合が高い傾向であることが結果からわかる。

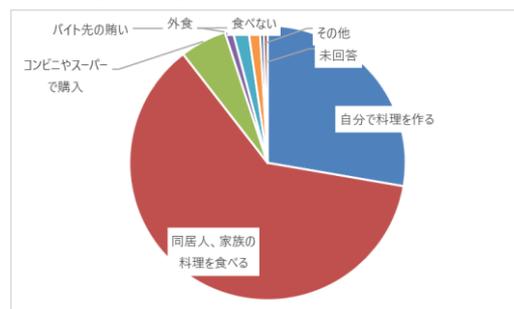
図表-6 食事スタイル（朝食）



図表-7 食事スタイル（昼食）



図表-8 食事スタイル（夕食）



### 3-3 回答者の外食事情

大学生の外食事情を知るため、「外食頻度」、「1回の外食で使う金額」、「1か月に使える外食金額」の質問を行った。

「外食頻度」は【月1~2日程度】（64名、29.1%）が最も多く、次いで【週1~2日程度】（55名、25.0%）が多い結果となった。

「1回の外食で使う金額」は、【1,000円程度】（92人、41.8%）が最も多く、次いで【1,000円~1,500円程度】（82人、37.3%）が多い結果となった。この結果から、大学生は1回の外食では1,500円までを基準にしている傾向があるようだ。

「1か月に使える外食金額」は、【1万円未満】（149人、67.7%）が最も多い結果となった。

### 3-4 コロナ流行前後の変化

コロナウイルス流行後の「外出頻度」、「外食頻度」、「収入」に変化があったかどうか質問を行った。

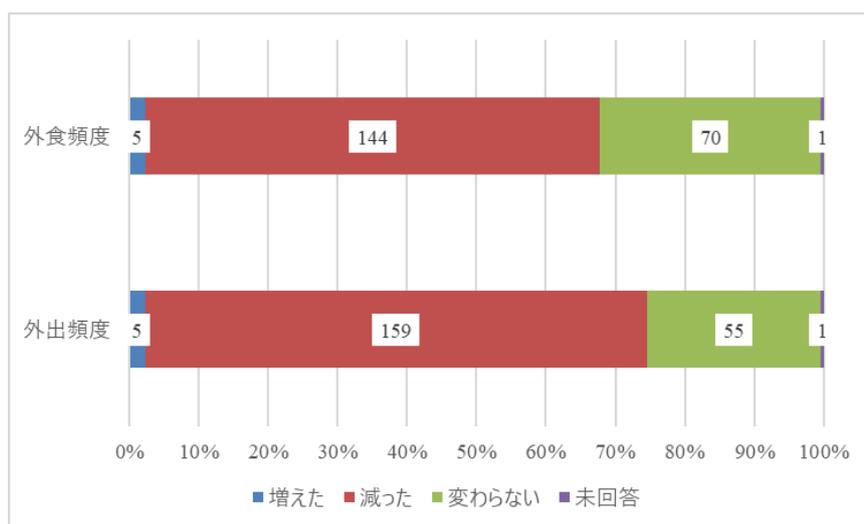
「外出頻度」は、7割弱（159人、72.3%）の人が減少していた（図表-9）。

「外食頻度」は、6割程度（144人、65.5%）の人が減少していた（図表-9）。

「収入」は、6割弱（137人、62.3%）の人が変化していなかった（図表-10）。

コロナウイルスの影響で外出自粛を余儀なくされたことがこの結果につながったのだろう。

図表-9 コロナ流行後の外出頻度と外食頻度の変化



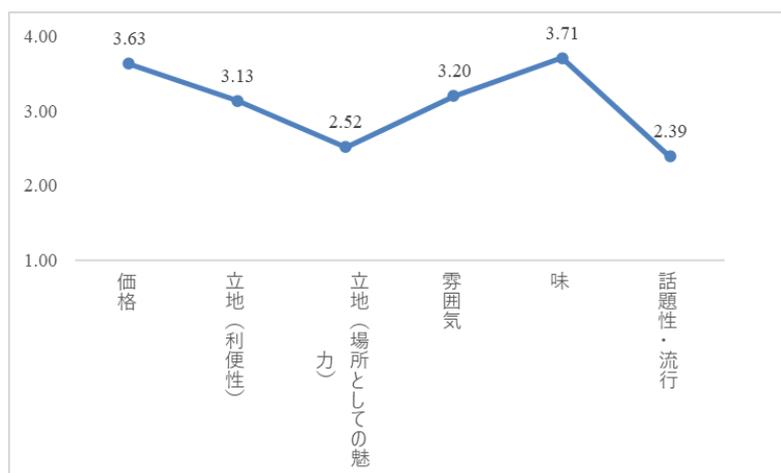
図表-10 コロナ流行後の収入の変化

	度数	確率(%)
収入が増えた	18	8.2
収入が減った	59	26.8
変わらない	137	62.3
未回答	6	2.7

### 3-5 外食店舗選択の際に見ている点

外食店舗選択の際に見ている点について【あてはまる】を4点、【ややあてはまる】を3点、【あまりあてはまらない】を2点、【あてはまらない】を1点、として質問をした。その結果、「味」が3.71 (0.49) で最も高く、次いで「価格」が3.63 (0.69) となった（図表-11）。

図表-11 外食店舗選択の際に見ている点



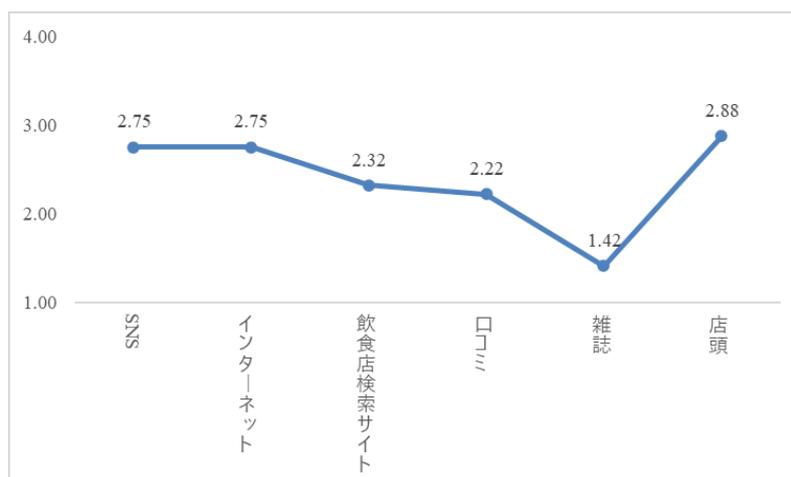
### 3-6 よく行く外食店舗のジャンルについて

外食に行く際にどのようなジャンルのお店に行くかどうか、よく行くジャンルを3つ回答してもらった。その結果、「ファストフード店」(59.8%)が最も多く、次いで「ファミリーレストラン」(61.4%)、「カフェ」(46.3%)の順が多かった。結果から、大学生の多くはファストフード店やファミリーレストランなどのチェーン店に行っているのだろう。また、3-5で示したように「味」や「価格」を意識するのであればチェーン店に行くのも納得できる。

### 3-7 外食店舗の情報入手方法について

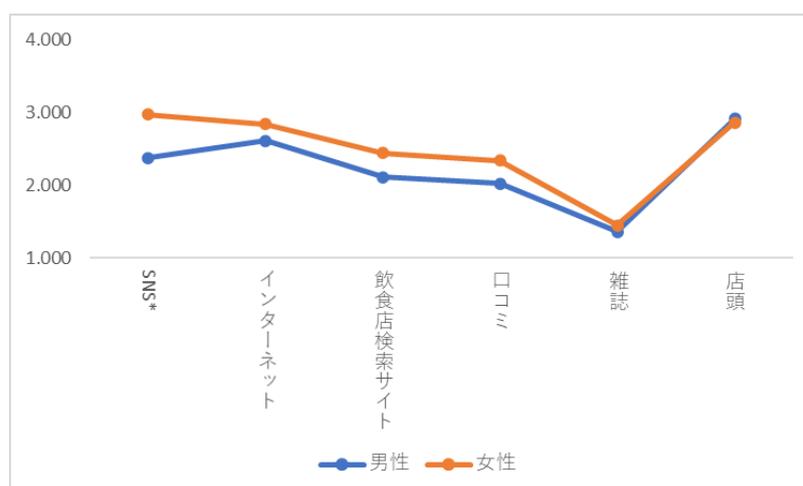
外食店舗の情報入手方法について【あてはまる】を4点、【ややあてはまる】を3点、【あまりあてはまらない】を2点、【あてはまらない】を1点、として質問をした。その結果、「店頭」が2.88 (SD=1.06)で最も高く、次いで「SNS」2.75 (SD=1.17)と「インターネット」2.75 (SD=1.16)となった(図表-12)。この結果から、大学生は店舗の情報をインターネットを通じて知る、または店頭でその場で情報を入手している人が多い傾向にあることが分かった。

図表-12 外食店舗の情報入手方法の平均値



「SNS～店頭」を従属変数として、性別（男性、女性）の1要因2水準被験者間分析を行った。その結果、「SNS」(F (177) = 10.97, p < 0.01) に有意差が見られた。この結果から、女性のほうが外食店舗を調べる際に SNS を活用している傾向にあるといえる。

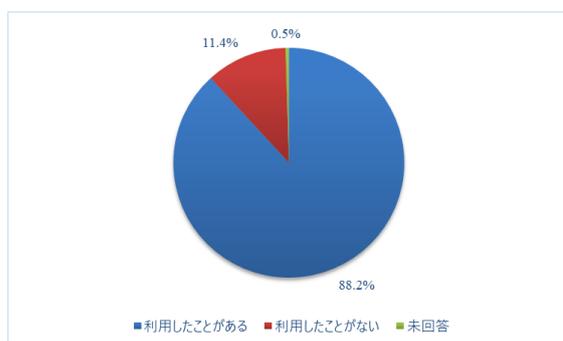
図表-13 性別ごとに見た外食店舗の情報入手方法の平均値



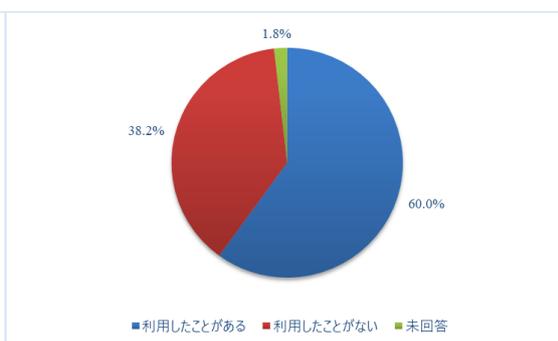
### 3-8 テイクアウト、デリバリーサービスの利用有無

テイクアウトの利用有無を質問したところ、約9割（194名、88.2%）の人が利用したことがあるという結果となった（図表-14）。また、デリバリーサービスの利用有無を質問したところ6割（132名、60.0%）の人が利用したことがあるという結果となった（図表-15）

図表-14 テイクアウト利用有無

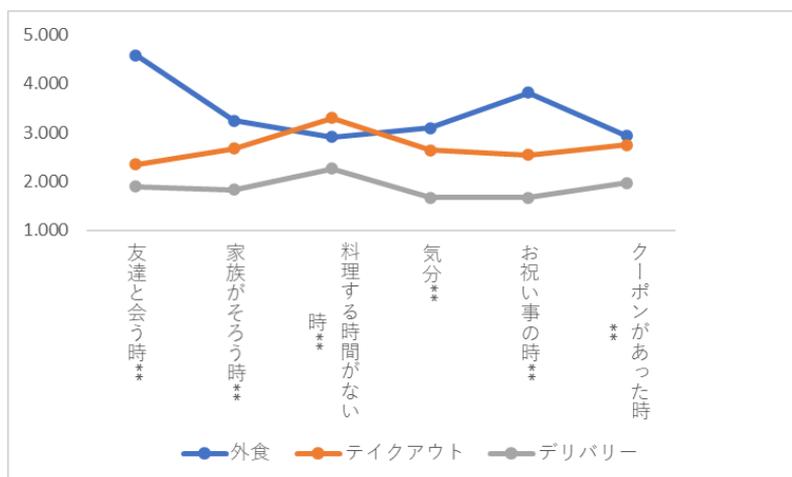


図表-15 デリバリーサービス利用有無



### 3-9 外食、テイクアウト、デリバリーサービスの利用目的

図表-16 外食、テイクアウト、デリバリーサービスの利用目的の平均値



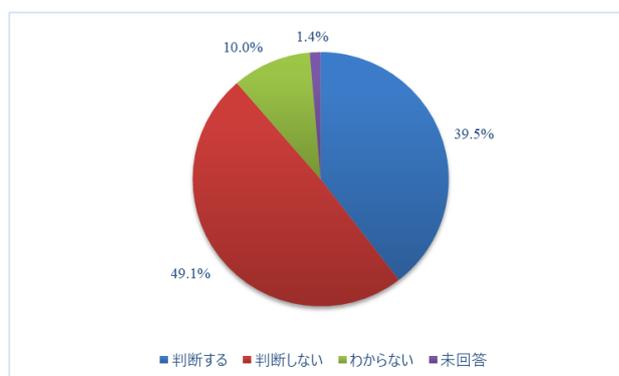
外食、テイクアウト、デリバリーの利用目的について、【あてはまる】を5点、【ややあてはまる】を4点、【どちらともいえない】を3点、【あまりあてはまらない】を2点、【あてはまらない】を1点、として質問をした。その平均値を示したのが図表-16である。

外食については、「友達と会う時」が4.66 (SD=0.79) で最も高く、次いで、「お祝い事の時」が3.88 (SD=1.35) となった。テイクアウトは、「料理する時間がない時」が3.37 (SD=1.84) で最も高く、次いで「クーポンがあった時」が2.75 (SD=1.78) となった。デリバリーサービスは、「料理する時間がない時」が2.32 (SD=2.14) で最も高く、次いで「クーポンがあった時」が2.04 (SD=2.02) となった。

### 3-10 テイクアウト、デリバリーサービスの外食としての判断

テイクアウト、デリバリーサービスを外食として判断するかどうかを質問したところ、【判断する】が約4割（87名、39.5%）、【判断しない】が約半数（108名、49.1%）、【わからない】が1割（22名、10.0%）となり、全体的にばらけた結果となった（図表-17）。

図表-17 テイクアウト、デリバリーサービスの外食としての判断



この判断するかどうかの回答した理由を自由記述で回答してもらった。その結果、【判断する】の理由としては【(自分で作っていないから)、(家で作っていないから)、(お金を払っているから)】のような理由が多く見られた。【判断しない】の理由としては【(家の中で食べるから)、(中食だから)、(家の外で食べることを「外食」だと思っているから)】という理由が多く見られた。テイクアウトやデリバリーサービスはコロナウイルスの流行後から利用し始めた人も多いだろう。料理をだれが作ったかどうかと、食べる場所の価値観の違いによって「外食」として判断するかどうかに差が生じて、結果がばらけたのだと考察する。

図表-18 性別ごとに見たテイクアウト、デリバリーを「外食」として判断するかどうか

出現値	判断する	判断しない	わからない	合計
男性	37(50.0)	28(37.8)	9(12.2)	74(100.0)
女性	45(35.4)	72(56.7)	10(7.9)	127(100.0)
合計	82(40.8)	100(49.8)	19(9.5)	201(100.0)

性別とテイクアウト、デリバリーを「外食」として判断するかどうかの関連を示したのが、図表-18である。テイクアウト、デリバリーを「外食」として【判断する】と回答した割合は男性のほうが多く37名（50.0%）だった。一方、【判断しない】と回答した割合は女性のほうが多く72名（56.7%）だった。カイ二乗検定の結果、性別の違いによる有意

な差が見られた ( $\chi^2(2)=6.68, p<0.05$ )。結果から男性と女性では判断基準が異なるのではないかと考察する。

### 3-11 外食時に重視している事柄について

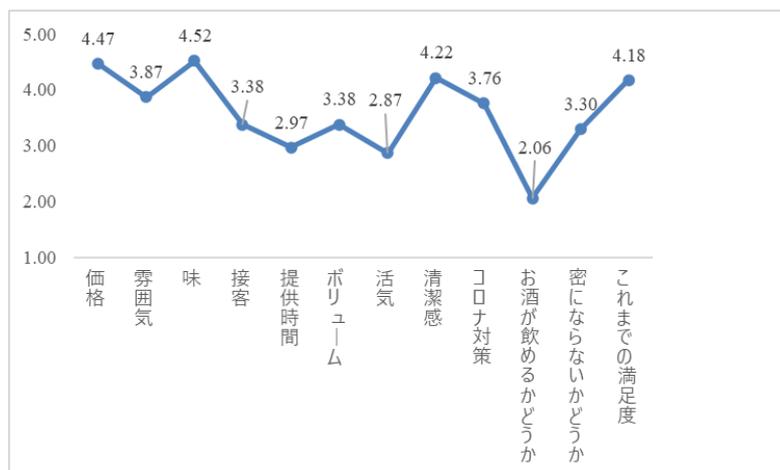
図表-19 外食の際重視している事柄の因子分析

項目	環境因子	店舗対応因子	経験因子	条件因子	平均値
密にならないかどうか	.916	-.123	-.148	.076	3.30
コロナ対策	.838	.066	-.025	-.028	3.76
雰囲気	.488	-.010	.264	-.158	3.87
清潔感	.390	.120	.264	.069	4.22
提供時間	-.079	.833	-.072	-.002	2.97
ボリューム	-.129	.563	.113	.190	3.38
活気	.141	.522	.019	.117	2.87
接客	.257	.457	.028	.043	3.38
味	-.028	.099	.795	-.303	4.52
これまでの満足度	-.005	-.152	.658	.403	4.18
価格	-.026	.143	-.116	.543	4.47
お酒が飲めるかどうか	.049	.106	-.052	.167	2.06
固有値	3.979	1.318	1.159	1.152	
累積寄与	63.408				

外食の際重視している事柄がどのような因子を持つかを知るために因子分析を行った(図表-19)。その結果、4つの因子に分類することができた。

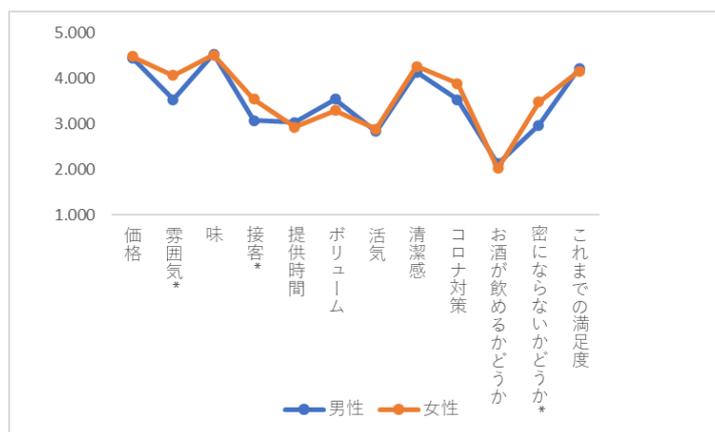
第一因子は、「密にならないかどうか」、「コロナ対策をしていけば問題ない」、「雰囲気」、「清潔感」という項目となり、『環境』因子とした。第二因子は「提供時間」、「ボリューム」、「活気」、「接客」という項目となり、『店舗対応』因子とした。第三因子は「味」、「これまでの満足度」という項目となり、『経験』因子とした。第四因子は「価格」、「お酒が飲めるかどうか」という項目となり、『条件』因子とした。

図表-20 外食時に重視している項目の平均値



外食時に重視している項目について【とても重視している】を5点、【重視している】を4点、【どちらともいえない】を3点、【あまり重視していない】を2点、【重視していない】を1点、として質問をした。その結果、「味」が4.52 ( $SD=0.68$ )で最も高く、次いで「価格」が4.47 ( $SD=0.81$ )となった。「コロナ対策」は3.76 ( $SD=1.21$ )でどちらかといえば意識しているということが分かった(図表-20)。

図表-21 性別ごとに見た外食時に重視している事の平均値



「価格～これまでの満足度」を従属変数として、性別(男性、女性)の1要因2水準被験者間分析を行った。その結果、【雰囲気】( $F(177)=10.87, p<01$ )と【接客】( $F(177)=9.27, p<01$ )と【密にならないかどうか】( $F(177)=6.65, p<05$ )に有意差が見られた。いずれの項目も女性のほうが重視している傾向にあるといえる。また、因子分析の結果から、女性は特に環境因子を重視しているといえる。

### 3-12 各食事形態の利用目的の平均値の比較

外食、テイクアウト、デリバリーの利用目的について、【あてはまる】を5点、【ややあてはまる】を4点、【どちらともいえない】を3点、【あまりあてはまらない】を2点、【あてはまらない】を1点、として質問をした。その平均値を示したのが図表-16である。

「友達と会う時」「家族が揃う時」などの食事の際のシーンを挙げた。これらが食事形態間で違いがあるかを検討するため、「食事の際のシーン」を従属変数として、各食事形態(外食、テイクアウト、デリバリーサービス)の1要因3水準被験者間分散分析を実施した。

その結果、各食事形態の主効果は有意だった。それぞれの結果は、図表-22で示す。

図表-22 各食事形態の1要因3水準被験者間分散分析の結果

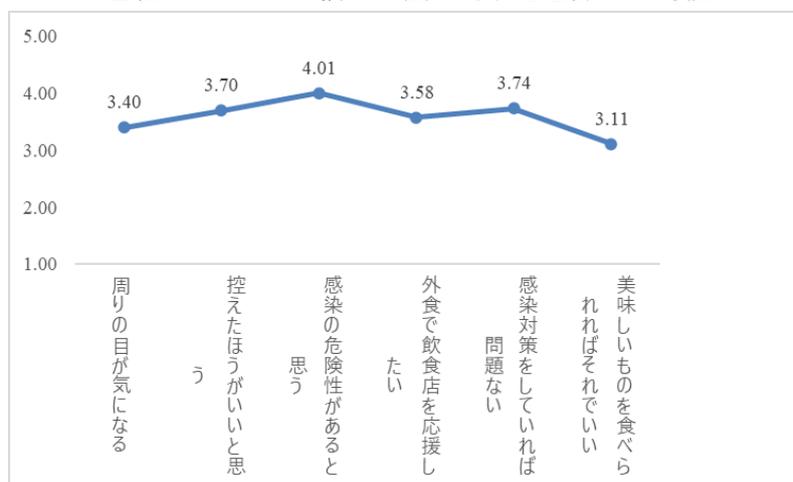
友達と会う時	(F(659)= 178.80,p<01)
家族がそろう時	(F(659)=37.52,p<01)
料理をする時間がない時	(F(659)=17.73,p<01)
気分	(F(659)=42.97,p<01)
お祝い事の時	(F(659)=94.44,p<01)
クーポンがあった時	(F(659)=18.71,p<01)

「外食」、「テイクアウト」、「デリバリーサービス」の3つの食事形態の利用目的について比較を行ったが、「料理をする時間がない時」の項目以外は「外食」の平均値が最も高い結果となった。このような結果となったのには「外食」の特別感が関係していると考察する。「外食」は、ただ料理を食べるだけでなく、店内の雰囲気やパフォーマンスを楽しむことができる。「テイクアウト」や「デリバリーサービス」を利用した場合は、自宅で料理を食べることになるのがほとんどだろう。この2つの食事形態では味わえない特別感を「外食」はもっているのではないかと考察する。また、料理をする時間がない時には、「外食」、「デリバリーサービス」に比べると値段を抑えることができるイメージがある「テイクアウト」が選ばれているのではないかと考察する。

### 3-13 コロナ禍の外食に対する意識

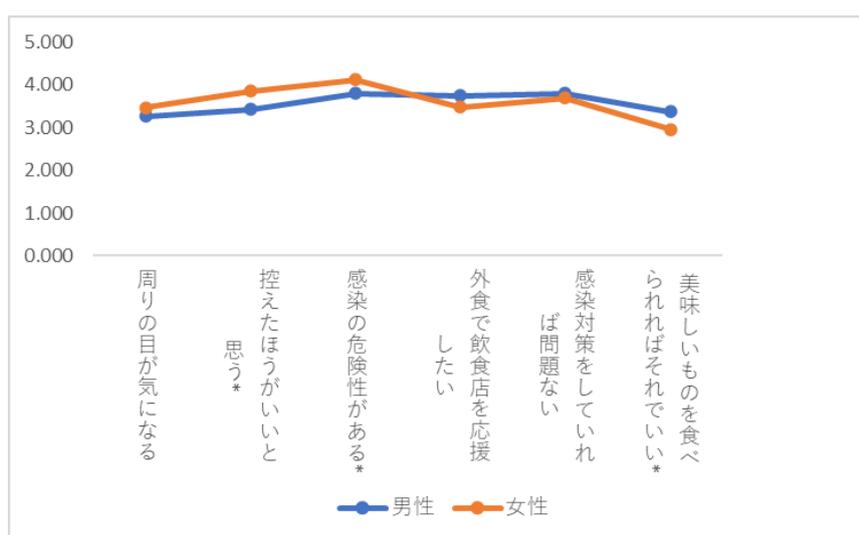
コロナ禍の外食に対する意識について【そう思う】を5点、【ややそう思う】を4点、【どちらともいえない】を3点、【あまりそう思わない】を2点、【そう思わない】を1点、として質問をした。その結果、「感染の危険性がある」が4.01 ( $SD=1.00$ )で最も高く、次いで「感染対策をしていけば問題ない」が3.74 ( $SD=0.96$ )となった(図表-23)。

図表-23 コロナ禍の外食に対する意識の平均値



また、「周りの目が気になる～美味しいものを食べられればそれでいい」を従属変数として、性別（男性、女性）の1要因2水準被験者間分析を行った。その結果、【控えたほうがいいと思う】(F(177)=6.20,p<05)と【感染の危険性がある】(F(177)=4.44,p<05)と【美味しいものを食べられればそれでいい】(F(177)=5.15,p<05)に有意差が見られた。この結果から、【控えたほうがいい】、【感染の危険性がある】といった否定的な項目は女性が意識している傾向であるといえる。また、【美味しいものを食べられればそれでいい】という肯定的な項目は男性が意識している傾向であった。

図表-24 性別ごとに見たコロナ禍の外食意識の平均値



### 3-14 性別と外食事情の関連

図表-25 性別ごとに見た外食頻度

	毎日	週5～6日程度	週3～4日程度	週1～2日程度	月1～2日程度	月3日程度	全く行かない	合計
男性	1(1.3)	2(2.6)	6(7.7)	19(24.4)	21(26.9)	17(21.8)	12(15.4)	78(100.0)
女性	0(0.00)	0(0.00)	7(5.3)	35(26.3)	40(30.1)	32(24.1)	19(14.3)	133(100.0)
合計	1(0.5)	2(0.9)	13(6.2)	54(25.6)	61(28.9)	49(23.2)	31(14.7)	211(100.0)

性別と外食頻度の関連を示したのが、図表-25である。男女ともに、【月1～2日程度】外食に行っている人の割合が最も高かった。しかし、カイ二乗検定の結果、2変数の関連は有意ではなく、性別と外食頻度には関連がないことが分かった。

図表-26 性別ごとに見た1回の外食に使う金額

	1000円程度	1000円～1500円程度	1500円～2000円程度	2000円以上	合計
男性	39(50.0)	29(37.2)	4(5.1)	6(7.7)	78(100.0)
女性	50(38.2)	51(38.9)	20(15.3)	10(7.6)	131(100.0)
合計	89(42.6)	80(38.3)	24(11.5)	16(7.7)	209(100.0)

性別と1回の外食に使う金額の関連を示したのが、図表-26である。男性は【1,000円程度】、女性は【1,000円～1,500円程度】の割合が最も高かった。しかし、カイ二乗検定の結果、2変数の関連は有意ではなく、性別と1回の外食に使う金額は関連がないことが分かった。

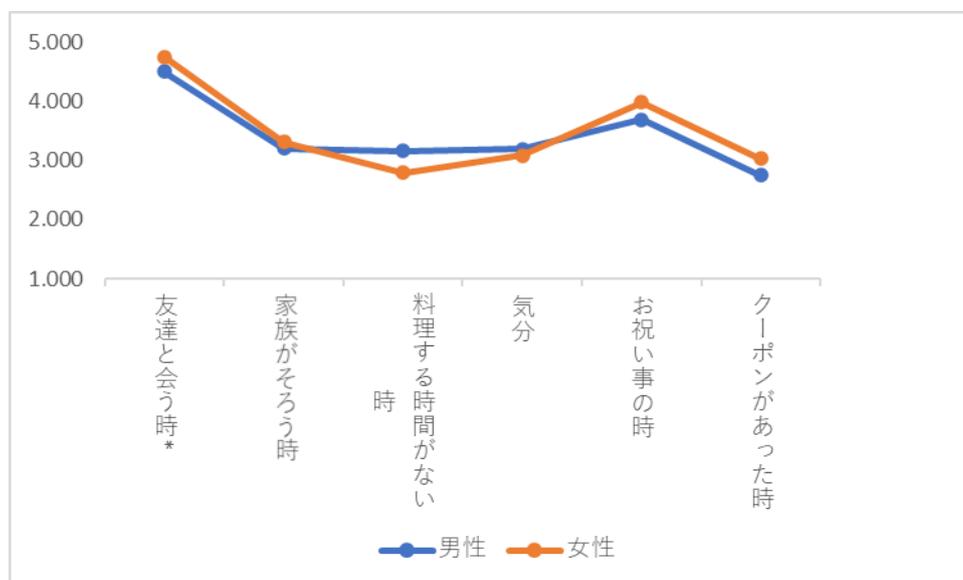
図表-27 性別ごとに見た1か月に使える外食金額

	1万円未満	1万円以上2万円未満	2万円以上3万円未満	3万円以上4万円未満	4万円以上	合計
男性	39(50.0)	23(29.5)	12(15.4)	3(3.8)	1(1.3)	78(100.0)
女性	103(79.2)	18(13.8)	9(6.9)	0(0.0)	0(0.0)	130(100.0)
合計	142(68.3)	41(19.7)	21(10.1)	3(1.4)	1(0.5)	208(100.0)

性別と1か月に使える外食金額の関連を示したのが、図表-27である。男女どちらも【1万円未満】の割合が最も高かったが、男性は半数なのに対し、女性は約8割と割合に差があった。カイ二乗検定の結果、性別の違いによる有意な差が見られた ( $\chi^2(4) = 22.3, p < 0.1$ )。この結果から女性のほうが男性に比べ、1か月に使える外食の金額は低い傾向にあるといえる。

外食頻度と1回の外食に使う金額は関連がなかったのに対し、1か月に使える外食金額に有意な差が見られた。3-10で示したように性別とテイクアウト、デリバリーを「外食」として判断するかには関連があった。女性のほうが男性に比べて1か月に使える外食の金額が低くなったのには、女性のほうがテイクアウト、デリバリーを「外食」として判断しない傾向にあることが関係していると考察する。

図表-28 性別ごとに見た外食の目的の平均値



「友達と会う時～クーポンがあった時」を従属変数として、性別（男性、女性）の1要因2水準被験者間分析を行った。その結果、【友達と会う時】( $F(1,77)=4.04, p<0.05$ )に有意差が見られた。結果から、女性のほうが【友達と会う時】に外食している傾向にあるといえる。

## 4. まとめと考察

今回の調査では、コロナ禍における大学生の外出事情に焦点を当てて調査を実施した。まず、外出頻度と外出頻度に関してだが、調査開始前の予想通りほとんどの人が減少している、または変わっていないという結果となった。外出、外出によってコロナウイルスに感染するリスクが生じるためこのような結果となったのだろう。このような感染のリスクを避けるために、テイクアウトやデリバリーサービスという選択肢を利用している大学生も多数いるといえる。3-13 で取り上げた「コロナ禍の外出意識について」の結果では、最も平均値が高かった項目は【感染の危険性がある】であったが、次いで高かったのは【感染対策をしていれば問題ない】という項目であった。この結果から、感染の危険性があるということを知っていながらも、感染対策がされていれば気にせずに外出を楽しんでいる大学生が多数いるといえるだろう。

3-10 では、テイクアウトとデリバリーサービスを外出として判断するかどうか質問をした。全体的にばらけた結果となり、その回答の理由も様々なものがあつた。料理をだれが作ったかどうかと、食べる場所の価値観の違いによって「外出」として判断するかどうかには差が生じて、結果がばらけたのだと考察する。カイ二乗検定の結果、有意差が見られたため、性別と判断するかどうかには関連があり、性別ごとに判断基準が異なると思われる。

3-12 では、外出、テイクアウト、デリバリーサービスの3つの食事形態の利用目的について比較を行ったが、【料理をする時間がない時】の項目以外は外出の平均値が最も高い結果となった。前述したように、このような結果となったのには外出の特別感が関係していると思われる。外出は、料理を食べるだけでなく、店内の雰囲気やパフォーマンスを楽しむことができる。ほかの2つの食事形態にもそれぞれ楽しみ方はあるが、他では味わえない特別感によって差別化されているのだと考える。

今回の調査を行うにあたって、私自身も外出をどのようなときに利用しているか、食事の際にどのような楽しみ方をしているか考えたところ、調査の項目にもあるように友達や家族と会う時や、お祝い事の時によく外出していると思った。また、外出する際には無意識に雰囲気やパフォーマンスも楽しんでいて、調査結果をまとめている際、気づくことができた。テイクアウトやデリバリーサービスを外出として判断するかどうかは、正直なところ、「判断する」の割合が多くなると予想していたため、思っていたよりばらけた結果となったのは予想外であった。この項目については、さらに深く追求していくことで見えてくるものがあると思うのでこの2つの食事形態の変化を注視しながらこれからも外出を楽しんでいこうと思う。

## 5. 参考・引用文献

- ・日本フードサービス協会会員社「JF 外食産業市場動向調査令和2年（2020年）」  
<http://www.jfnet.or.jp/files/nenkandata-2020.pdf>
- ・株式会社日本政策金融公庫「2020年10月外食に関する消費者調査結果」  
[https://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/seikatsu20\\_1113a.pdf](https://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/seikatsu20_1113a.pdf)

## コロナ禍における大学生の外出についての調査

この度は調査にご協力いただきありがとうございます。この調査は「メディア調査研究方法C」の授業の一環で行う「大学生の外出についての調査」のアンケートです。この調査で回収した回答、情報は統計的処理を行い、授業内発表や報告書作成以外に使用することは一切ございません。また、回答によって個人が特定されることや、授業評価に影響することもお知らせいたしません。率直にご回答よろしくお願いいたします。

この調査について何かご不明な点や質問がございましたら、お手数ですが下記の連絡先までご連絡をお願いいたします。

文教大学 情報学部メディア表現学科

3年 小山碧

Gmail : [b9p51042@bunkyo.ac.jp](mailto:b9p51042@bunkyo.ac.jp)

Q1 あなたの性別を記入してください。

( )

男性 (40.7%)

女性 (58.5%)

その他 (0.8%)

Q2 あなたの年齢を教えてください。

1. 18歳 (10.9%)

2. 19歳 (23.0%)

3. 20歳 (24.2%)

4. 21歳 (26.2%)

5. 22歳 (13.7%)

6. 23歳以上 (2.0%)

Q3 あなたの所属している学部を教えてください。

1. 情報学部 (29.6%)

2. 国際学部 (12.1%)

3. 健康栄養学部 (4.5%)

4. 経営学部 (6.1%)

5. 人間科学部 (19.4%)

6. 文学部 (15.4%)

7. 教育学部 (13.0%)

Q4 あなたは現在一人暮らしですか？実家暮らしですか？

1. 一人暮らし (35.9%)
2. 実家暮らし (62.1%)
3. その他 (2.0%)

Q5 1日の食事頻度を教えてください。

2021年6月の1か月間のことを思い出して回答してください。

1. 1回 (1.2%)
2. 2回 (43.3%)
3. 3回 (52.2%)
4. 4回以上 (2.8%)
5. 0回 (0.4%)

Q6 あなたの外出頻度について教えてください。

2021年6月の1か月間のことを思い出して回答してください。

1. 毎日 (0.8%)
2. 週5～6日程度 (0.8%)
3. 週3～4日程度 (7.7%)
4. 週1～2日程度 (27.4%)
5. 月1～2日程度 (27.4%)
6. 月3日程度 (20.2%)
7. 全く行かない (13.7%)

Q7 1回の外出に使う金額について教えてください。

2021年6月の1か月間のことを思い出して回答してください。

1. 1,000円程度 (43.5%)
2. 1,000円～1,500円程度 (38.2%)
3. 1,500円～2,000円程度 (10.2%)
4. 2,000円以上 (8.1%)

Q8 1か月あたりに使える外出の金額を教えてください。

2021年6月の1か月間のことを思い出して回答してください。

1. 1万円未満 (66.4%)
2. 1万円以上2万円未満 (21.1%)
3. 2万円以上3万円未満 (10.1%)
4. 3万円以上4万円未満 (1.6%)
5. 4万円以上 (0.8%)

Q9 外食に行くときにどんなジャンルのお店に行くか教えてください。  
よく行くお店を3つ挙げてください。

1. ファストフード店 (59.8%)
2. ファミリーレストラン (61.4%)
3. カフェ (46.3%)
4. 居酒屋 (13.0%)
5. 日本料理店 (2.4%)
6. 中華料理店 (8.5%)
7. ラーメン店 (34.1%)
8. 焼肉店 (19.1%)
9. そば・うどん店 (9.3%)
10. すし店 (29.7%)
11. 牛丼店 (11.0%)
12. その他 (2.0%)

Q10 実際に先月行ったお店があれば全てに回答してください。

1. ファストフード店 (54.9%)
2. ファミリーレストラン (50.0%)
3. カフェ (45.1%)
4. 居酒屋 (11.9%)
5. 日本料理店 (4.4%)
6. 中華料理店 (11.9%)
7. ラーメン店 (39.8%)
8. 焼肉店 (21.7%)
9. そば・うどん店 (11.5%)
10. すし店 (36.3%)
11. 牛丼店 (21.2%)
12. その他 (2.0%)

Q11 外食に行く店舗をどのような点を見て決めているか教えてください。  
 あてはまるものすべてにお答えください。

	あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	あてはまらない
価格 (3.63)	4	3	2	1
立地 (利便性) (3.13)	4	3	2	1
立地 (場所としての魅力) (2.52)	4	3	2	1
雰囲気 (3.20)	4	3	2	1
味 (3.71)	4	3	2	1
話題性・流行 (2.39)	4	3	2	1

Q12 外食に行く店舗の情報はどのように入手したのか教えてください。  
 あてはまるものすべてにお答えください。

	あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	あてはまらない
SNS (2.75)	4	3	2	1
飲食店検索サイト (2.32)	4	3	2	1
口コミ (2.22)	4	3	2	1
雑誌 (1.42)	4	3	2	1
インターネット (2.75)	4	3	2	1
店頭 (2.88)	4	3	2	1

Q13 どんな時に外食をするか教えてください。  
あてはまるものすべてにお答えください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらとも いえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
友達と会う時 (4.66)	5	4	3	2	1
家族がそろう時 (3.27)	5	4	3	2	1
料理する時間が ない時 (2.92)	5	4	3	2	1
気分 (3.12)	5	4	3	2	1
お祝い事の 時 (3.88)	5	4	3	2	1
クーポンがあっ た時 (2.93)	5	4	3	2	1

Q14 平日に外食に行くときの人数を教えてください。

1. 1人で行くことが多い (19.7%)
2. 2人以上で行くことが多い (61.4%)
3. ほとんど行かない (18.9%)

Q15 「2人以上で行くことが多い」と回答した方のみお答えください。  
どのような関係の人と行くことが多いですか。

1. 家族 (17.6%)
2. 友人・知人 (67.3%)
3. 恋人 (14.4%)
4. その他 (0.7%)

Q16 休日に外食に行くときの人数を教えてください。

1. 1人で行くことが多い (13.3%)
2. 2人以上で行くことが多い (72.7%)
3. ほとんど行かない (14.1%)

Q17 「2人以上で行くことが多い」と回答した方のみお答えください。  
 どのような関係の人と行くことが多いですか。

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 家族 (24.4%) | 2. 友人・知人 (62.2%) |
| 3. 恋人 (12.8%) | 4. その他 (0.6%)    |

Q18 あなたが外食をする上で何を重視しているのか教えてください。  
 それぞれあてはまるもの1つにお答えください。

	とても重視 している	重視してい る	どちらとも いえない	あまり重視 していない	重視してい ない
価格 (4.47)	5	4	3	2	1
雰囲気 (3.87)	5	4	3	2	1
味 (4.52)	5	4	3	2	1
接客 (3.38)	5	4	3	2	1
提供時間 (2.97)	5	4	3	2	1
ボリューム (3.38)	5	4	3	2	1
活気 (2.87)	5	4	3	2	1
清潔感 (4.22)	5	4	3	2	1
コロナ対策 (3.76)	5	4	3	2	1
お酒が飲めるか どうか (2.06)	5	4	3	2	1
密にならないか どうか (3.30)	5	4	3	2	1
これまでの満足 度 (4.18)	5	4	3	2	1

Q19 あなたの朝食の最も多い食事スタイルを教えてください。

1. 自分で料理を作る (30.1%)
2. 同居人、または家族の料理を食べる (28.5%)
3. コンビニやスーパーで購入 (10.4%)
4. 外食 (0.4%)
5. バイト先の賄い (0.4%)
6. 食べない (26.9%)
7. その他 (3.7%)

Q20 あなたの昼食の最も多い食事スタイルを教えてください。

1. 自分で料理を作る (33.7%)
2. 同居人、または家族の料理を食べる (24.9%)
3. コンビニやスーパーで購入 (29.7%)
4. 外食 (2.8%)
5. バイト先の賄い (0.8%)
6. 食べない (4.8%)
7. その他 (3.3%)

Q21 あなたの夕食の最も多い食事スタイルを教えてください。

1. 自分で料理を作る (27.7%)
2. 同居人、または家族の料理を食べる (54.6%)
3. コンビニやスーパーで購入 (6.0%)
4. 外食 (1.6%)
5. バイト先の賄い (2.0%)
6. 食べない (2.0%)
7. その他 (6.1%)

Q22 コロナ流行前とコロナ流行後で外出頻度にどのような変化があったか教えてください。

1. 外出頻度が増えた (25.3%)
2. 外出頻度が減った (72.7%)
3. 変わらない (2.0%)

Q23 コロナウイルスの影響によって収入にどのような変化があったかどうか教えてください。

1. 収入が増えた (8.6%)
2. 収入が減った (29.9%)
3. 変わらない (61.5%)

Q24 コロナ流行前とコロナ流行後で外出頻度にどのような変化があったか教えてください。

1. 外出頻度が増えた (2.0%)
2. 外出頻度が減った (30.9%)
3. 変わらない (67.1%)

Q25 テイクアウトを利用したことがあるか教えてください。

1. 利用したことがある (90.0%)
2. 利用したことがない (10.0%)

Q26 「利用したことがある」と回答した方のみお答えください。

どんな時にテイクアウトを利用するか教えてください。

あてはまるものすべてにお答えください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらとも いえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
友達と会う時 (2.37)	5	4	3	2	1
家族がそろう時 (2.67)	5	4	3	2	1
料理する時間が ない時 (3.37)	5	4	3	2	1
気分 (2.66)	5	4	3	2	1
お祝いの事 (2.54)	5	4	3	2	1
クーポンがあっ た時 (2.75)	5	4	3	2	1

Q27 デリバリーサービスを利用したことがあるか教えてください。

1. 利用したことがある (61.8%)
2. 利用したことがない (38.2%)

Q28 「利用したことがある」と回答した方のみお答えください。  
どんな時にデリバリーサービスを利用するか教えてください。  
あてはまるものすべてにお答えください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
友達と会う時 (2.02)	5	4	3	2	1
家族がそろう時 (1.93)	5	4	3	2	1
料理する時間がない時 (2.32)	5	4	3	2	1
気分 (1.75)	5	4	3	2	1
お祝い事の時 (1.75)	5	4	3	2	1
クーポンがあった時 (2.04)	5	4	3	2	1

Q29 あなたはテイクアウトやデリバリーサービスを「外食」として判断するかどうか教えてください。

1. 判断する (40.5%)
2. 判断しない (49.8%)
3. わからない (9.7%)

Q30 回答の理由を簡単に教えてください。(自由記述)

家で食べるから

自分で作っていないから。

家で作ってないから

家の中で食べるから 他 209 件

Q31 最後にお尋ねします。コロナ禍での外食に対する意識についてお答えください。

	そう思う	ややそう 思う	どちらと もいえな い	あまりそ う思わな い	そう思わ ない
周りの目が気になる (3.40)	5	4	3	2	1
控えたほうがいいと思う (3.70)	5	4	3	2	1
感染の危険性がある (4.01)	5	4	3	2	1
外食で飲食店を応援したい (3.58)	5	4	3	2	1
感染対策をしていけば問題 ない (3.74)	5	4	3	2	1
美味しいものを食べられれ ばそれでいい (3.11)	5	4	3	2	1